

郷土館発

土雛と出会い、少し昔の家族の愛情とふれ合ってみませんか

郷土館も、二月一日から玄關にお雛様を飾りました。

普段は、講義室に展示されているお雛様も、こうして居並ぶと生き生きしておみえです。

飾ったお雛様はどれも「土雛つちびな」といわれる土人形です。

生産地にもほとんど残っていないといわれる土雛が、三河北部の家々に数多く、大切に保存されていました。



それらが郷土館に寄贈されました。

高価な衣裳いしやうびなは庶民に手が出ない時代、土雛が誕生し、お雛様が身近なものになりました。

粘土の素焼きに絵の具で装飾しただけの粗末な作りの人形ですが、貧しい生活の中で、健やかな成長や幸せを願い、親や祖父母から子や孫に贈った最大の心づくしの品でした。

土雛は、素朴な作りの土人形なので、ちょっとした衝撃で壊れます。乱暴に扱うと絵の具がはがれ落ちます。土雛を出し入れする時は、一体一体を紙でくるみ、土雛と土雛の間に紙の固まりを入れ、大事に大事に取り扱いました。

親が子に、土雛に託された思いを語りつつ、飾ったり、片付けたりにしている温かい光景が目に見えます。

地域により、時代により、土雛に関わる風習は様々です。

どの風習にも色々な形で家族の愛情がしみこんでいます。

郷土館の土雛に出会い、貧しくとも力強く生活していた人々の、少し昔の家族の温かい愛情とふれ合ってみませんか。

(奥三河郷土館 加藤紘市)

